

関東農政局は17日、野菜振興セミナーをオンラインで開いた。環境負荷低減に配慮した施設園芸の先進事例や技術を紹介。電気で加温するヒートポンプの実証結果などを示した。昨年7月の「みどりの食料システム法」の施行を受け企画した。

千葉県農業生産振興課の森田悟課長が、燃油削減策を説明。同市農政センターが2022年度に行った、重油とヒートポンプ

燃油削減の経営示す 野菜振興セミナー

関東農政局

ンブを併用するハイブリッド加温ハウスでのイチゴ栽培を例に挙げた。実証ハウスでは、ハイブリッドが重油だけに比べ7割、オール電化より3割ほど加温コストが低かった。10坪当たりの二酸化炭素(CO₂)の排出量も重油だけの2割以下、オール電化の半分以下抑えられた。森田課長は「23年度は燃料削減と収量の両面を考慮した経営モデルを作る」と話した。

農研機構農村工学研究部門の石井雅久さんは、施設園芸の脱炭素化を報告。ヒートポンプは冷房や除湿ができ、病害を防止で生育を促すと利点を伝えた。一方、課題として「外気温が低いと室外機の除霜が必要になる。その間は暖房が止まるため、暖房性能が得にくい」と指摘した。セミナーはウェブ会議システムで配信し、生産者やJA、行政関係者ら約30人が視聴した。